





10 軒ほど立てられ、独身寮の面影はない。

この官舎すべてが写った東京天文台の航空写真がある（写真1）。この写真には官舎ではなかった住居 2 軒も写っている。この写真には 30 cm 望遠鏡ドームも映っているから 1951 年以降の航空写真である。

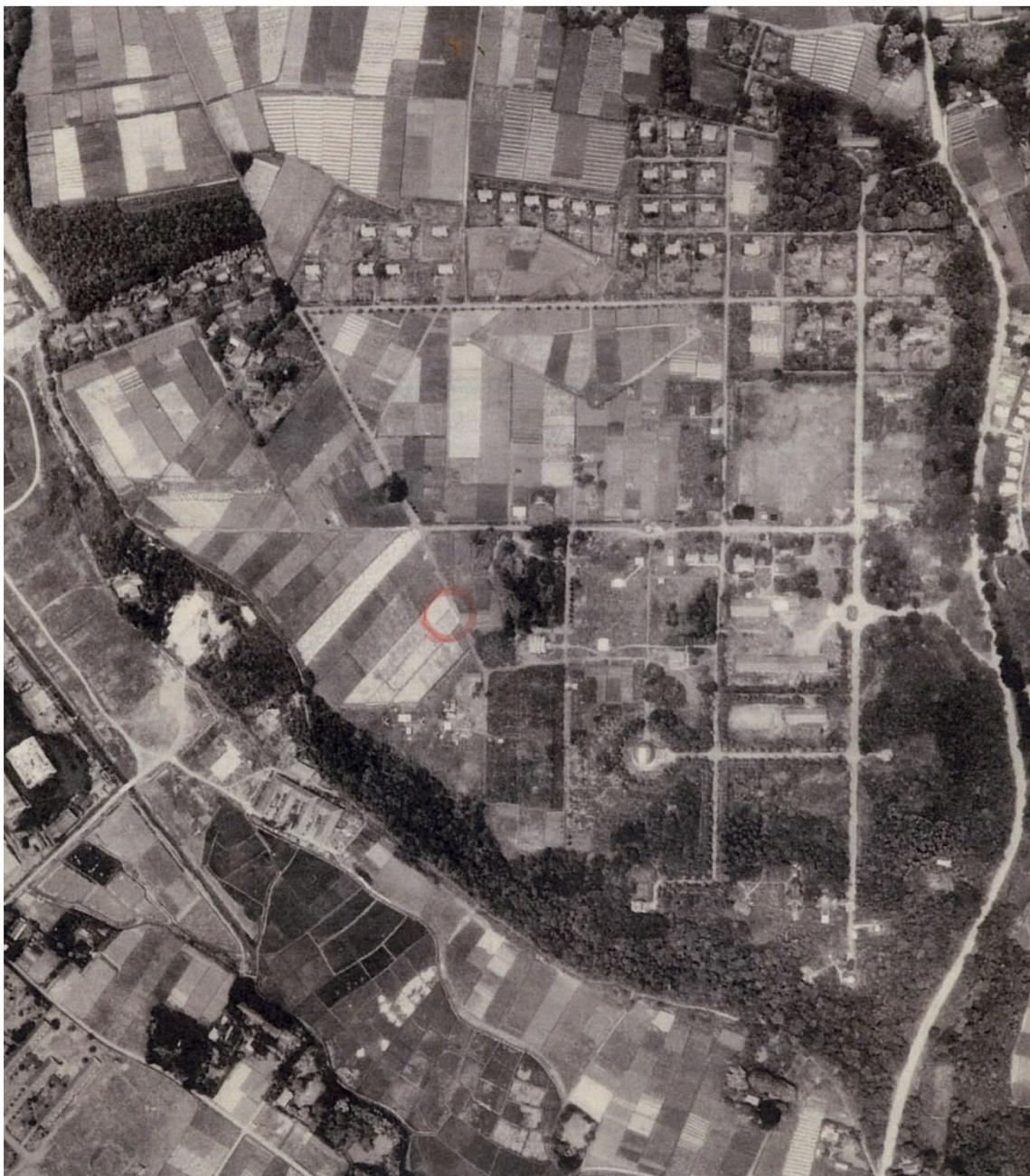


写真1 天文台構内に畑地も残るころの航空写真

写真 1 を見ると、桜並木の桜の木はまだ小さな若木に見える。また、菱形基線の基線尺試験室の長い建物も写っている。観測施設と官舎の間の広い領域には畑が広がっている。65 cm ドームの北、少し西には硬式テニスコート、卯酉儀ドームの北、少し東には軟式テニ

スコート、北西にはバレーボールコートが確認できる。

官舎の敷地だけをトリミングしたものが写真2である。



写真2 敷地の官舎部分

官舎の番号を記入したものが図3である。建設時、移管順に番号がついているので複雑である。

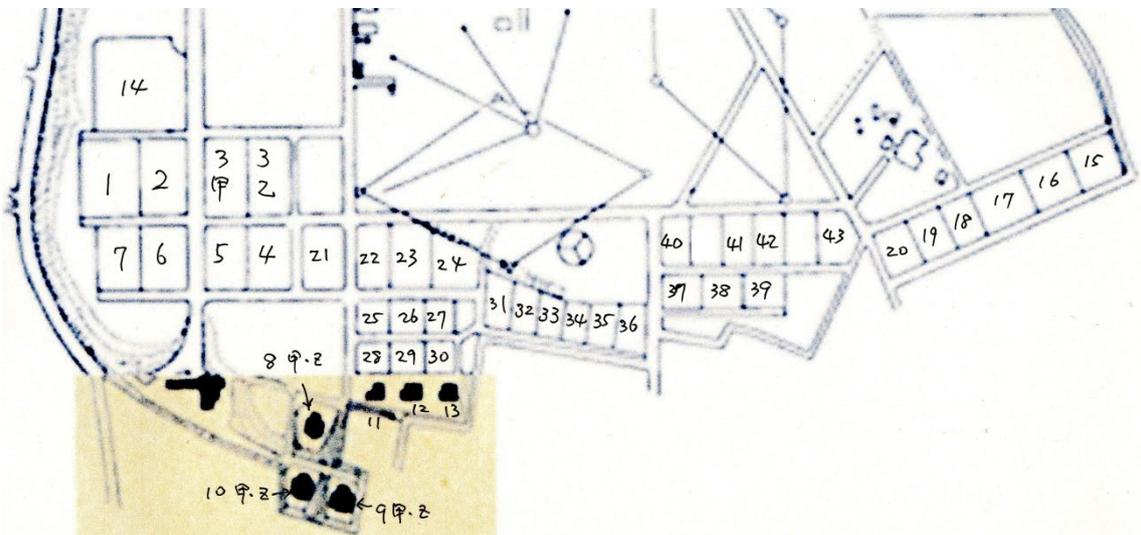


図3 東京天文台の北側境界線近くに官舎が東西に建てられていた

なお、15号官舎～20号官舎は1948年に東京天文台に移管された三鷹国際報時所の官舎であり、17号が所長官舎であった。昔は高等官官舎には書生部屋、女中部屋もあり、判任官官舎、雇人官舎など階級によって住める官舎に制限があった。21号～43号官舎は1950年ころ建設された戦後物の不自由な時代の建物で非常に粗末な建物であった。

東京天文台本館は1945年2月8日未明、火災を起こし全焼し貴重な機材、資料が焼失してしまった。その後、研究棟は本館（一）1949年建設、本館（二）1950年建設、など木造

の建物がいくつも建てられたが、観測施設の近くに木造で建てられた研究室が広い範囲に点在していた。

事務部は台長官舎であった 14 号官舎を事務棟として使用し、台長室、応接室も 14 号官舎にあった。

そして事務部の管理棟、北研究棟が完成したのは 1966 年（昭和 41 年）のことであった。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)